



野鳥の 不思議解明 最前線 #100

文 植田睦之

© Japan Bird Research Association, 2013

渡るアトリ。彼らもコウモリに襲われた経験があるのだろうか？ 撮影●内田博

夜の渡りにも捕食者がいた

～ヤマコウモリが渡り鳥を襲う？～

この連載も早いもので100号となりました。月に1つ論文を紹介するのは、なかなか大変なのですが、ぼくのような怠け者は、こういうノルマがないと英語論文を読まなくなってしまうので、もうしばらく続けようかと思えます。

これまでに、どんな記事を書いただろう、と、折り返し地点の50号をみると、ハンガリーのシジュウカラがコウモリを襲って食べていたという論文を紹介していました。奇遇にも、先週、逆にコウモリが鳥を食べていたという論文をいただいたところだったので、この論文を紹介したいと思います。

鳥を食べていることがわかったコウモリは、日本最大の食虫性のコウモリのヤマコウモリです。とはいっても頭胴長は10cm程度とあまり大きくありません。鳥を捕食するなんて本当かな？と思ってしまうのですが、和歌山大学の福井さんたちが旭川、函館、熊谷で採取した糞を解析したところ、その中から鳥の羽や骨が出てきたのです。羽だけなら、空を漂っている羽を虫と勘違いして呑み込んだんじゃないの？とも考えられますが、福井さんに糞の写真を見せてもらったら、かなりの量の羽が出ていますし、骨が出たということは、やはり本当に鳥を捕らえて食べているんでしょうね。

糞から鳥が出てくる季節は、春に少し、そして夏はまったく出ず、秋から初冬にかけてが多いそうです。コウモリが行動するのは夜です。夜に空を飛んでいる小鳥というと、渡り中の小鳥くらいしか考え

られません。夏に捕食されないのは、鳥の渡り時期ではないからでしょう。でも、なぜ春は少ないのでしょうか。それにはコウモリの主要な食べ物である昆虫の数が効いているのかもしれませんが。通常虫を獲っているコウモリにとって、小鳥を捕らえるのは簡単なことではないでしょう。そのため昆虫の多い春は小鳥の捕食に積極的ではなく、虫が少なくなる秋冬になると積極的に鳥を襲うようになるのかもしれませんが。

福井さんに聞いたところ、コウモリが捕食している鳥種、捕獲方法などはまだわからないそうです。現在DNA解析等を進めているとのことで、今後の研究に期待しましょう。

夜に小鳥が渡る理由として、大気が安定していて飛びやすいこととともに、捕食の危険が少ないことがあげられてきました。しかし夜の渡りにも捕食者がいることがこの研究から見えてきました。その捕食圧が高いのだとしたら、夜渡る鳥の飛行高度が日中よりも高いのは、コウモリの捕食を避けるためなのかもしれません。いくつかの調査地で渡り鳥の飛行高度を調べていると、不思議と飛行高度の低い場所があります。そんな場所はヤマコウモリがいない場所だったりして…。いろいろ妄想が膨らみますね。

紹介した論文

Fukui, D., Dewa, H., Katsuta, S. & Sato A. (2013) Bird predation by the birdlike noctule in Japan. *J. Mammalogy* 94: 657-661.